

2006年度 第1回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<確定稿>

開催日時：2006年4月11日(火) 午後7時15分～8時40分
開催場所：西東京ボランティア・市民活動センター活動室
出席委員：阿部靖子、熊田博喜、坂口和隆、瀧島喜重、安岡厚子、柳澤正樹、山下恭子
<以上7名、敬称略、あいうえお順>
欠席委員：飯塚 睦 <以上1名、敬称略、あいうえお順>
事務局：齊藤地域福祉課長、中澤主事、今林コーディネーター、平田コーディネーター
丸木係長

配布資料

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(3月)
- 資料 2：コーディネート状況等月次報告
- 資料 3：西東京ボランティア・市民活動センター予定表(4月)
- 資料 4：2005年度第12回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録<未定稿>
- 資料 5：2006年度西東京ボランティア・市民活動センター事業・事務執行計画(案)
- 資料 6：2006年度新規登録ボランティア数の目標値の設定について
- 資料 7：西東京ボランティア・市民活動センター事業評価シート(修正案)
- 資料 8：災害時のシステムづくり専門委員会委員名簿

委員長：新年度第1回の運営委員会となるがよろしくお願ひしたい。最初に職員の異動があったので紹介してほしい。

事務局：地域福祉推進係から異動してきたのでよろしくお願ひします。

1. 報 告 事 項

(1). 西東京ボランティア・市民活動センター業務報告について

事務局より、資料1、2に基づき3月の業務報告を行う。

委員長：にこにこでの活動は、定着してきたか。

事務局：7～8名の参加がある。3月まではにこにこでの取り組みとして、講座などを実施してきたが、これからどうしたらよいかということ事務局で検討しているところである。

委員長：商店会には歓迎されているのか。

事務局：歓迎されている。自主防災組織をたちあげるにあたって、にこにこで行った災害をテーマにした講座がきっかけになり、後押しをしてくれたという評価をもらっている。

委員：市民活動団体に役立つ基礎講座はどのような内容だったのか。

委員長：どうやって会員を集めるか、資金を集めるかというテーマで講演と対談を行った。講師は私と日本NPOセンターの事務局長が務めた。参加者が23名と少なかったのが残念だった。

委員：参加者23名では、まあまあの参加者数だと思うが。

委員長：日本NPOセンターの事務局長が講師だったので、もっと参加者を集めてよかった。

事務局：昨年市民活動団体の協力を得て、講座についての意向調査を行い、その結果をもとに日中に開催したが、今回の反省点として年度末という実施時期が参加者数に影響したのではないかと思う。

他に質問、意見無く、3月の業務報告を終了する。

委員長：では、続いて4月の事業予定の説明をしてほしい。

事務局より資料3に基づき4月の事業予定を説明する。

質問、意見無く報告事項を終了する。

(2).災害時のシステムづくり専門委員会の報告について

事務局より、第10回災害時のシステムづくり専門委員会の協議内容について報告がある。

委員長：5月20日に開催する講演会をすでに広報しているのか。

事務局：今回資料配布したチラシでは、まだ広報していない。最終版のチラシがまだできていないので、これからの広報になる。

他に質問、意見なく災害時のシステムづくり専門委員会の報告を終了する。

2. 審 議 事 項

(1). 2005年度第12回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録について

資料4により、第12回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録の確認を行う。

委員長：5ページ下から2行目だが、「評価シートを最終のもとし、しれをもって～」は、「評価シートを最終のもとし、それをもって～」の間違いではないか。

事務局：修正する。

他に訂正等の意見なく、第12回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会会議録（未定稿）を確定稿とする。

(2). 2006年度事業執行計画について

事務局より、資料5および6に基づき2006年度西東京ボランティア・市民活動センター事業執行計画について提案される。

委員長：事業計画をホームページに掲載してほしい。

事務局：どのような形で掲載したらよいか。

委員長：そのままPDFファイルで掲載すればよいのではないか。

委員：ぼらんていあ倶楽部での有料広告は、1コマどのくらいの金額を考えているのか。

事務局：1コマ1,000円を予定している。

委員長：積極的に広告をとってほしい。

委員長：実習生はどのような形になるか。

委員：西東京市社会福祉協議会は部署が多いので、1箇所での実習が短時間の実習になる。したがって、同じ部署で2週間くらい実習させることができればと思っている。

委員長：単位がもらえるのか。

委員：社会福祉士受験資格のための単位となる。

委員長：何名になるのか。

委員：今回、西東京ボランティア・市民活動センターでの長期の実習は初めての試みになるので、実習生は1名を考えている。

委員長：インターンを募集するということはどうなのか。

事務局：育てることを丁寧にやっていると、多くは受け入れられない。現状の業務で手一杯のところ、今以上の負担は避けたい。

委員長：インターンには事務的なことを担ってもらいながら職員の動き方を見ながら勉強するという

こともあるのではないかと。お金をとってインターンを受け入れているところがある。

委員：武蔵野市ではインターンを積極的に受け入れている。

委員：職業体験として受け入れている。教員を1ヶ月間受け入れたことがある。

委員：職業訓練校のNPOマネジメント科の人たちを受け入れた。

委員長：マンパワーとして受け入れるのであればインターンを受け入れてもよいのではないかと。事務局で検討してほしい。

委員長：ITの活用はどうか。

事務局：今はまだ検討していない。今年度、災害をテーマにした取り組みがどのくらいの事務量になるかによるが、メールマガジンは今後考えたい。

委員長：メールマガジンは半年に1回ということはできないし、やり始めたらやり続けなければいけないので、難しい面もあるが有効に活用できる。

委員長：1年間のコーディネート報告があったが、数字的には一人のボランティア登録者に対して約1.3回くらい活動を紹介していることになるが、実態としてどうか。

事務局：正確に調べてはいないが、登録者の6~7割くらいが実働しているのではないかと。

委員長：登録者の数だけがが増えてもしかたがなく、登録者も増え、それに伴って多くの人が活動するようになることが必要だと思う。

委員：建物内にボランティア募集を掲示することはできないか。たとえばエレベーター内などはどうか。

事務局：総合福祉センター内でのポスター掲示は制約があり、自由に張り出したりできないのが現状である。

委員長：1年間のコーディネートでどのような特徴があったか。

事務局：在宅高齢者への傾聴活動はまだ課題も多いが紹介した先からは喜ばれた。

事務局：最近の施設からの依頼では、安易にボランティア・市民活動センターを利用しているという印象があり、自分たちでボランティアを発掘、育成しようという動きが少ないように感じる。そのようなところに対してどのような働きかけをするか。また、特定の人にだけ紹介になりやすいので、情報を公平に提供していくことが課題と認識している。

委員：運営委員会で一つひとつの事業の詳細を検討することはしないのか。その事業の詳細がわかれば運営委員として協力できる部分もあるのではないかと。

委員長：今後の協議事項の中に少しずつ入れていってはどうか。

事務局：すべてができるわけではないが、運営委員会で検討していただきたい。

委員：たとえば広報活動の手段として公共施設を利用するという案だが、効果は期待できないのではないかと。それよりも西東京青年会議所が行うわんぱく相撲を活用したほうが、多くの人に西東京ボランティア・市民活動センターの存在を知ってもらえるのではないだろうか。

委員長：事業を検討するにあたって、広報というテーマを取り上げるのもよいのではないかと。今後の議題の中に事務局で判断し、協議事項として入れてほしい。

以上、質問、意見が出された後、2006年度事業執行計画について承認された。

(3) 事業評価について

事務局より、資料7に基づき、事業評価修正案について提案される。

委員：「目標設定は適当だったか」という項目と、「目標は達成できたか」という項目ではどのように違うのか。同じように思うが。

事務局：目標設定の内容そのものがあるということと目標設定の内容は違っていたが、その目標は達成されたということがあるのではないかと。

以上の意見が出され、評価を実施する過程で不具合があれば、随時事務局において修正を加えることを付帯し、事務局が提示した修正案で9月まで評価を実施することが承認された。

以上をもって、2006年度第1回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会の審議を終了し、散会する。